

第38の物語

——ウイリアム・ペインター『悦楽の宮殿』より——（試訳及び語義表）

羽 多 野 正 美

ナルボンヌの医者の子の娘ジレットはフランス国王が罹った瘰癧という病気を治します。彼女は見返りにルシヨンのベルトラーモ伯爵を夫にしたいと要求します。したくもない結婚をさせられた伯爵は腹を立ててフィレンツェへ逃亡し、そこで別の女性を愛します。妻のジレットは一計を案じ、首尾良くその愛人に代わって夫と寝て、二人の息子をもうけます。事の次第を知った夫は彼女を受け入れ、その後ずっと名誉と至福の人生を送ります。

フランスのルシヨンにイズナルド伯爵という紳士がいました。伯爵は病弱のため、ナルボンヌの医師ゲラルドをいつも屋敷においでしていました。伯爵にはベルトラーモという一人息子がいましたが、それは可愛い美少年でした。（ルシヨンでは）その少年と同じ年頃の子供たちが大勢大切に育てられていましたが、その中に、今申し上げた医師の娘の一人で、ジレットという名の女の子がいました。彼女はベルトラーモに恋をしました。それは年端のいかない子供のものとは思えないような激しい恋慕の情でした。

しかし、ベルトラーモの父親が死んでしまいました。そのためベルトラーモはフランス国王の庇護の下に置かれることとなり、パリへ送られました。その出立をジレットは悲しみました。しばらくして、彼女の父親も亡くなりました。それで、彼女は機を見てパリへ行き何とかしてその若い伯爵のベルトラーモに会いたいと、想いを募らせていました。しかし、（彼女は金持ちの上に父親がなくなりましたから）親戚の人たちに絶えず監視されていました。そのため、彼女は自分が意図す

る旅に出るチャンスを見出すことができませんでした。

ジレットはいつでも結婚できる年齢になっていましたので、親戚の者たちは彼女に婿をとらせようとしたが、彼女は理由を明かさなまま多くの男たちを拒絶していました。若い伯爵に寄せるジレットの恋慕の情は消えるどころか募る一方だったからです。

さて、ジレットがこれまで以上にベルトラーモへの恋慕の情をかき立てられることが起きました。ベルトラーモが立派な青年紳士になったという噂を耳にしたのです。彼女はもう一つ情報を耳にしました。その情報によれば、胸にできた腫れ物の処置が悪かったためにできた瘰癧によってフランス国王が大変な痛みと苦しみの日々を送っていらっしやるということでした。さらに、国王がそのような事態になっているにもかかわらず、（たくさんの医師が試されたということですが）その腫瘍を治癒できる医師が見つからず、腫瘍は悪くなる一方、痛みは増す一方であったため、王は絶望の淵に立った者の如く、誰の忠告も助けも受けようとされないということでした。

ジレットは心を躍らせました。なぜなら、彼女はこの状況をパリへ行く正当な理由として利用できるだけでなく、自分の予想どおりに王の病気を簡単に治癒できれば若いベルトラーモ伯爵を夫として迎えることができるようになるのではないかと考えたからです。そこで彼女は、以前父親の手術を見て覚えた知識をもとに、その病気に合うと思われる薬草を見つけ、それで腐蝕薬を作ってパリへ馬車を走らせたのです。

パリに着くや、彼女は真っ先にベルトラーモ伯

爵に会いました。次に彼女は王の所に行って、腫瘍を拝見させて下さるようお願い出ました。王は若く美しい彼女を一目見るや、魅力的な女性だとお考えになり、腫瘍を隠そうとはされず、胸をはだけてお見せになりました。彼女は腫瘍を診るや治療が可能であることを見て取り、国王を安心させて「陛下、天命に誓って申し上げます。陛下にはいかなる大きな苦痛もお与えすることなく、8日以内にご病気を完全にお治ししてご覧に入れます」と言いました。彼女の言葉を聞いた王は嘲って言いました。「この世でもっとも高名な医師たちが治せなかった病気をそなたのような若い娘がどうして治せるというのか」。王は彼女の気持ちに謝辞を述べ、これ以上どの医者への世話にもならないときっぱり申されました。それに対して彼女は言いました。「陛下、陛下は私が若い故に、しかも女であるが故に私の知識を軽蔑なさっておられますが、私は医術によってではなく神のお助けとお力によってお治しようとしているのでございます。それに、生前名を轟かせた、あのナルボンヌのゲラルド医師の医術を加えさせて頂くつもりでございます。その医師は私の父でございます」。

彼女の言葉を聞いた王は心の中で言いました。「この女はおそらく神に遣わされた者だ。私に痛みも苦痛も与えることなく短期間で治すと約束しているのだから、この者の医術の力を試させない理由などないというものだ」。

かくして国王は彼女に治療させてみようとして心に決められて、尋ねられました。「娘よ、もし私の病を治すことができずに私の決心を無にすることになったときにはどうするつもりか」。彼女は答えて言いました。「陛下、私をどこへなりと御意に召すままに幽閉して下さいませ。8日のうちにお治しできないときには、火あぶりの刑に処して下さい結構でございます。でも、陛下のご病気を治した暁にはどのような褒美をいただけますでしょうか」。王は答えて言いました。「そなたは女性で未婚の身であるから、約束どおり治療した暁には誰からも心から敬愛されている高貴な紳士を授けてつかわそう」。彼女は答えました。

「陛下、私を結婚させて下さるとのこと、もうそれだけで大満足でございます。でも、お許しいただければ、決して陛下のお子さまとかご親戚の方をお考えなさらずに、どうか私がお願ひする方をお授け下さいますようお願いいたします」。王は即座に彼女の要求をおのみにりました。

その若い女性はすぐ治療に取りかかり、短期間に、それも約束の日にならないうちに、王の病気をすっかり治してしまいました。完全に治ったのを見届けた王は、彼女に言いました。「ジレック、そなたは約束をじゅうぶん果たしてくれた。それに見合うだけの褒美を取らせるから、自分の思う夫を選ぶが良い」。彼女は答えました。「それでは、私が子供の頃から心を寄せていた、あのルシヨンのベルトラーモ伯爵様に私に頂きとう存じます」。王はその伯爵だけは与えたくないと思いましたが、今となっては約束を違えなくなかったので、伯爵を呼び出して言いました。「伯爵よ、そなたは大変誉れ高い家柄の紳士である。それ故にそなたの地位にふさわしく、郷里の屋敷に戻って、領地を取り仕切ってもらいたいと思う。ついては、そなたの妻にと余が決めた娘を連れていくがよい」。伯爵はうやうやしくお礼の言葉を申し上げ、その娘が何者かを尋ねられました。王は言いました。「その者は余の病気を治してくれた者だ」。伯爵は彼女のことをよく知っていたどころか、(すでにお話ししたとおり)最近彼女に会ってもいました。彼女は美しい女性だと思っただけでしたが、気高い自分の身分に相応しい生まれの者ではないと思っただけだったので、伯爵は冷笑的な物言いで王に言いました。「それでは、陛下、医者ごときを私の妻にとおっしゃるのですか。そのような身分賤しき者にこの身を明け渡しても、神はよしとなさらないでしょう」。王は言いました。「では、無事平癒の暁には褒美としてそなたを夫にして進ぜようと余がその娘に与えた誓いをそなたは破れと言うのか」。陛下、ベルトラーモ伯爵は言いました。「私は陛下の部下でございますから、陛下は私が所有する物すべてを取り上げて下さって結構ですし、この身をお気に召すままにどなたに下げ渡されても結構でございます。

しかし、陛下、この結婚の儀だけはお受け致しかねます。「だが」と王は言いました。「彼女は美しい女であるし、賢明な女である。それに、そなたをこよなく愛しておる。だから、そなたはもっと家柄の良い婦人と生活するよりも彼女と生活する方がはるかに楽しい人生を送ることができる、余は心から思う。だからそなたに彼女を娶らせることにしたい」。伯爵はこの言葉を聞くと、ついに口をつぐみました。

王は結婚式の準備を大々的に始められ、やがて式の当日になりました。王のご臨席を得て、自分の身などどうなってもよいと思うほど伯爵を愛しているその娘と自分の気持ちに逆らってしぶしぶ式に臨んだ伯爵は結婚式を挙げました。式が終わると、伯爵は故国で初夜を迎えたいので帰国の許可をいただきたいと申し出ました。

しかし、帰国の許可を得た伯爵はかねて心に決めていたとおり、馬の背にのるや故国へとは向かわずトスカーナ国への道を取ったのです。伯爵はトスカーナ国に着いたとき、フィレンツェとシエナが戦っていることを知り、すぐさまフィレンツェ側につく決心をしました。彼はすぐさま受け入れられ、歓待を受けるとともに、小隊長に任命され、長い間その任を果たしました。

新婦のジレッタはと言えば、夫の冷たい仕打ちに承服できませんでしたが、自分の行いの力で何とかして夫が故国へ戻ってきてくれるようにならないかと願って（郷里の）ルシヨンへ向かいました。そこで彼女は家臣全員から「自分たちの奥方様」として受け入れられました。伯爵の留守を良いことにあらゆる事が駄目になり無秩序になっていましたが、賢明な彼女は細心の注意を払いながら懸命に働いて、失われた秩序をすっかり元通りに回復しました。そのことで、臣下の者はたいへん喜ぶとともに、心から彼女を愛し慈しみました。その一方で、そんな彼女を冷たくあしらう伯爵をすぐく責めました。

このように素晴らしい働きをしたジレッタは国全体をすっかり元通りにすると、「自分のせいで国をお捨てになったというのであれば自分はこの国を去ります」という内容の親書を国王宛にした

ため、二人の騎士に託しました。しかし、伯爵は「彼女がこの指輪（彼がはめていた指輪のことで）を指にはめることができない限り、又、私との間に生まれた息子を胸に抱くことがない限り、私は彼女と暮らすつもりはない。だから、彼女のことは放っておけばよい」という厳しい内容の返事を持たせて使者を帰されました。その指輪は、伯爵様が大層気に入って大切にしていたものでした。その上伯爵様はその指輪に何か特別の力があると信じていましたので、決して指からはずそうとはされなかったのです。

騎士たちはこれら二つの厳しい条件を聞いたとき実現不可能と思うとともに、自分たちの力では王様の決心を覆すことはできないと思い、お后様の許へ戻ってその返事を伝えました。お后様は大層悲しまれ、しばらく思いを巡らしていましたが、何としても夫を手元に戻したいとお考えになり、二つの難題を解決しようと決意されました。どうするかを心に決めた上で、彼女はもっとも身分の高い重臣たちを集められ、伯爵の愛を勝ち得るためにこれまで自分がやってきたことを語るとともに、又その結果がどれ程報われないものであったかを哀れみを込めて語りました。彼女は最後に自分のせいで伯爵が永遠の流浪の身になって欲しくないから魂の救済を求めて残りの人生を巡礼とお祈りの内に過ごしたいと思うとつけ加えて言いました。又、奥方様は二度とルシヨンへは戻らないと決心して城を離れ遠く見知らぬ土地へ身を移したと伯爵様に伝えて欲しいと頼みました。それと同時に彼女は集まった者たちで国の管理、統治をしてくれるよう頼みました。彼女がこれらの言葉を語っている間、多くの涙が流されました。その一方で、重臣たちは伯爵様に心を入れ替えてもらおうと何度も嘆願しましたが、いずれも無駄でした。

ジレッタ夫人はすべてを神に委ね、銀貨や宝石を用意させるや、行き先を誰にも言わず、侍女一人と親戚の者一人を連れ、巡礼姿で出立しました。そして、途中一度も休むことなく旅を続け、フィレンツェに着きました。フィレンツェに着いたとき、彼女は運命のお導きにより、とある貧し

い寡婦の家に行き着き、そこに逗留することになりました。貧しい巡礼の身なりが気になりましたが、夫のことを知りたいと思う気持の方が勝っていました。その翌日、運命のお導きにより、夫のベルトラーモ伯が家来を連れて馬で（彼女が逗留している）寡婦の家の近くを通りかかりました。もちろんジレッタは彼のことをよく知っていましたが、その家の善良な女主人にあのお方はどなた様ですかと尋ねました。女主人の答はこうでした。「あの紳士のお方はこの土地の方ではなく、ルシヨン国のベルトラーモ伯爵様といわれる方ですよ。心優しい騎士様で、町の者皆から慕われているお殿様です。あの方は今私の隣人の淑女を凄く好きになっておいでです。その女性は真真正直な方で大変評判の良い方なのですが、大層貧しく財産もわずかしかありませんので未だ結婚することができず、正直者の賢明なお母さまと一緒に住んでいらっしゃるのですよ」。

この話に耳を傾けていたジレッタ夫人は詳細について少しずつお尋ねになりました。そして、寡婦の話が本当のことだとわかった彼女は自分が取るべき方法を心に決められました。彼女は伯爵に好かれているというその女性が住む家の在処と、その女性の名前と母親の名前を聞き出し、ある日巡礼のなりのまま密かにその家に行きました。彼女は貧しいなりの家族の中に母親とその娘を見出すや、二人に挨拶をし、母親に相談があると切り出しました。母親は立ち上がってジレッタを丁重に一室に誘って、二人だけになって腰を下ろしました。二人だけになると伯爵夫人は話を始めました。「奥様、奥様は私同様に運命の女神様からしかめ面を向けられている者のお一人だと思います。でも、奥様次第で、奥様の心も私の心も安らぐことになるにちがいありませんわ」。母親は答えて言いました。「でも、女神様はこの世で正直故に得ることができる慰めしかお望みになりませんことよ」。伯爵夫人はたたみかけるように言いました。「今私に必要なのはまさにその、あなた様の真真正直さと信頼なのです。もし私が疑わず、それに乗じてあなた様が欺くという行為をなさるならば、私はもちろん、あなた様ご自身も破

滅してしまうというものですわ」。母親は言いました。「おっしゃることの意味が私にはわかりませんわ。どうかはっきりとおっしゃって下さい。決してあなた様を裏切るようなことはいたしませんから」。その言葉を聞いたジレッタは夫との状態を包み隠さず話し始められ、自分が何者であるかを打ち明けられるとともに、これまでの経緯すべてを順序だって打ち明けられました。母親は伯爵夫人のことでいろいろと噂話に聞いていたので、身の上話を聞くにつれ、次第にジレッタ夫人への同情心をかきたてられました。ジレッタは身の上話を終えるや、計画を打ち明けて言いました。「悩み事の中でも、とりわけ大きな二つの難題のことを聞いていただきました。その二つの物は、夫が私の許にあれば、当然私の手にあるべきものばかりだということをおわかりいただけたのではないかと思います。さて、奥様、夫はあなたの娘さんと深い恋仲だと聞きました。もしその噂が本当だとすると、この難題を解決して二つの物をこの手にいれるためには、奥様のお助けだけが頼りだと思のです」。母親は答えました。「伯爵様が私の娘を愛して下さっている可能性は大きいとは思いますが、実のところ本当のことは私にもわかりません。でも、奥様はいったい私にどうして欲しいとおっしゃるのでしょうか」。伯爵夫人は答えて言いました。「では、奥様、お話し致します。でもその前に、計画が実現した暁に私があなたにしてあげたいと思っていることからお話しさせて下さい。お嬢さんは大変美しい方で、いつ結婚されてもおかしくない年齢におなりだとお見受けしますが、それにもかかわらず結婚されない理由は、勝手ながら十分な嫁入り支度ができないからではないでしょうか。ですから、あなたが私にして下さることへのお礼としてこれだけあれば娘さんに恥ずかしくない結婚をさせてやれるとお考えいただけるだけの支度金を差し上げたいと思います」。母親は大変貧乏でしたから伯爵夫人の申し出を気に入りましたが、気高い心を持ち主でしたので（即答はせずに）次のように言いました。「奥様、私がして差し上げられることがどういものかを先ずお話しになって下さい。それが

気高い内容のものであれば私は喜んで実行に移します。そして、事が成就した暁には、どうぞ奥様の気が済むようになさって下さいませ」。その言葉を受けてジレットは言いました。「あなたにお願いしたいことは、あなたが信頼する者を一人、私の夫である伯爵の許に遣わして『娘は伯爵様の御意のままになるつもりでいますし、私もそうさせるつもりでいます。でも、伯爵様が他の誰にもまして娘のことを愛して下さっていることを娘に納得させるには、伯爵さまがとても大切になさっていると娘もよく知っているあの指輪、伯爵様がいつも指にはめていらっしゃるあの指輪を愛の証しとしてお与え頂きとう存じます』と頼んで下さい。指輪が届きましたら、それを私に下さい。その後でもう一度伯爵の許へ使いを出して、『娘はいつでも伯爵様のご寵愛をお受けいたします』とお伝え下さい。それから伯爵を密かにここへ呼び寄せ、（あなたの娘の代わりに）私を伯爵の横に密かに滑り込ませて下さい。そうすれば、ひょっとすると神のお恵みによって私に子供が授かるかもしれません。そうなった暁には、あの指輪をこの指にはめ、彼によって宿された子供を両腕に抱くことができるというもの。そして、私は自分の夫を取り戻すことができ、私たち二人の関係を回復することができるばかりでなく、あなたのお力によって夫婦が送っていかねばならない形で私たちは一緒に生活していくことができるようになるというものです」。

母親は当初、この依頼を引き受けるのは難しいと思いましたが。娘に咎めがありはしないかと恐れたからです。しかし、このお方様は夫との間を回復しようとされており、偽りのない愛情によって正しい目的をもってそうしようとされているのだから、仲介の役を取ることは正しいことではないかと考えました。それで、母親は実行に移す約束をしたばかりか、ジレットから依頼されたとおりに実に巧妙に行動して、数日後には渋る伯爵から指輪を手に入れてしまいました。さらに、娘に代わって伯爵夫人が伯爵と寝る手筈をも整えたのです。

さて、初夜のベッドで伯爵は何度も欲情をかき

たてられましたので、まさにその夜、神の思し召しによって、ジレットは素敵な子供を、しかも可愛い双子の息子を身ごもりました。そしてやがて出産の時期を迎えるという風に事が運びました。母親はその日もいつもどおりに夫を同行させるなどして、企みが決して伯爵に露見しないように注意を払いました。それで、伯爵は自分が愛する娘と寝たものと思いつんでいて、よもや自分の妻と寝たとは思いませんでした。

伯爵は翌朝目を覚ますと、彼女を多くの優しい愛の言葉で包むとともに、美しい素敵な宝石をいろいろと与えました。伯爵夫人はそれらの宝石を細心の注意を払って大切にしました。

伯爵夫人は、身ごもったことがわかるや、もうそれ以上娘の母親を煩わせることもないと考えて言いました。「奥様、神とあなたのお陰で私は欲しいものを手に入れました。今度は私があなたの労苦に報いるときです。それを果たしたら、私は出立いたします」。母親は言いました。「もし奥様のお気持ちに沿えたのであれば、もうそれで十分でございます。報償が欲しかったからというのではございません。自分の善意で奥様のお役にたてたことを心から嬉しく思います」。それを聞いてジレット夫人は言いました。「奥様にそう言っていただくと嬉しく思います。私としても、褒美としてあなたが要求する物を差し上げようというわけではありません。あなたが一生懸命やって下さったことを思うと、どうしてもお礼がしたいのです」。

伯爵夫人のこの申し出に対し、娘の母親は心ならずではありましたが、必要性から、実に恥ずかしそうに娘の結婚資金として100ポンドを願い出しました。伯爵夫人は母親の恥じ入った様子や控えめな要求の仕方を感じ入って、500ポンドのお金に加えて、ほぼ同額の素晴らしい宝石類を与えました。母親は大いに満足して、伯爵夫人に心から謝意を述べました。伯爵夫人は母親に別れを告げ、居所としている寡婦の家に帰りました。一方、母親は伯爵や使いの者を避け、娘を連れて田舎の友だちのところを身を隠しました。

数日経った頃、ベルトラーモ伯爵は家臣たちか

ら国へ戻るよう促され、(又、伯爵夫人が国を出たと聞かされたので) 宮殿へ戻りました。ジレットは夫がフィレンツェを発って自宅に戻ったことを知って大変喜びました。その一方で、彼女はフィレンツェにとどまりました。やがて分娩の時が来て、彼女は息子を、それも父親と瓜二つの双子の息子を産みました。彼女は二人の息子を注意深く世話して育て上げました。そして時期を見て(人知れず) 旅に出て、モンペリエに着きました。彼女は数日間そこに逗留して、休息しながら伯爵の動向や居場所の情報を収集しました。

間もなく、ジレットは伯爵が万聖節の日に貴婦人たちや騎士たちを集めて宮殿で大宴会を催す計画をしているという情報を得ました。その日になると、彼女は巡礼姿で宮殿に出かけました。招待客全員が宮殿に集まり、今まさに晚餐のテーブルに着こうとしているとき、彼女は巡礼姿のまま二人の息子を両腕に抱き、人々をかき分けながら伯爵が座っている所まで進むや、伯爵の足下にどっとひれ伏して泣きながら言いました。「ご主人さま、私はあなた様の哀れな妻でございます。ご主人様にお戻り頂いてこの屋敷でお住まい頂けるように、私はこれまでずいぶん長い間巡礼の旅をしておりました。ですから、こうしてお帰り頂いた今、神の名誉にお誓いして申し上げます。二人の者(私があなた様の許にお送りした二人の騎士のことです)に命じて私にお伝えになったあのお約束を今ここでお果たし下さい。さあ、どうかご覧下さい。私の両腕にはあなたの息子を一人どころか二人も抱いています。そして、こうしてあなた様の指輪をはめております。ですから、どうか(お約束を守って下さるならば)私をあなた様の妻として今こそ受け入れて下さるようお願いいたします」。

指輪のことも二人の息子(伯爵に瓜二つでした)のことも寝耳に水の話で、伯爵はたいへん驚かれました。伯爵は訝って尋ねました。「だが、このようなことがどのようにして起こったというのか」。伯爵夫人は事の顛末を一部始終順序だてて語って聞かせました。彼女の話聞いたとき、伯爵は勿論、その場に居合わせた人は皆びっくり

しました。彼女が語ったその話が本当だとわかった伯爵は、ジレットの堅固な心と素晴らしい機知に感心するとともに、二人の可愛い幼子を見て、約束を果たす決心をされました。それで伯爵はジレットを法的に妻として迎え入れよう、そしてこれからは彼女を大切にしようと考えられ、臣下の者をも自分に求婚していた女性たちをも納得させるとともに、これまで頑なに続けてきた冷たい仕打ちを捨てられました。そして、伯爵はジレットを立ち上がらせてしっかりと抱き、キスをして法的に正しい妻と認めました。その後で、伯爵はジレットに身分に相応しい身なりをさせました。

その場に居合わせた者だけでなく多くの他の友人たちが愛でたことは、伯爵がその日だけではなくその後もずっと上機嫌だったことです。そして伯爵はその後いつまでもジレットを大切な配偶者大切な妻として愛し続け大切にしたのでした。

訳者あとがき

これはウィリアム・ペインター (1540?–1594) の『悦楽の宮殿』(*The Palace of Pleasure*) に収められている38番目の物語(「ナルボンヌのジレット」)の日本語訳である。訳に使用したテキストは William Painter, *The Palace of Pleasure with an introduction by Hamish Miles and illustrations by Douglas Percy Bliss* (The Cresset Press, London, MCMXXIX) (4巻本)である。このテキストはオックスフォード大学印刷局で機械漉きの紙に500部、手漉きの紙に30部が印刷された。私の手許にあるテキストには第139冊目と記されている。

ウィリアム・ペインターは生涯に101編の歴史と物語を集めた。そのうち38編は史書から集められたものであったが、残りの68編はイタリア、フランス、スペインの「ノヴェラ」(*Novella*)という新しい文芸様式による物語から集められたものであった。これらの物語の中にボッカチオ(*Giovanni Boccaccio*; 1313–1375)の『デカメロン』(*Decameron*; 1350?–1353)が含まれていた。

ウィリアム・ペインターは全2巻本として『悦楽の宮殿』(*The Palace of Pleasure*)を編纂した。

彼は『デカメロン』から得た15編の物語のうち、10編を第1巻に、5編を第2巻に収めた。(4巻本として編集・刊行されたマイルズ Hamish Miles の版では、10編が30番から39番の物語として第1巻に、又、残りの5編が第2巻に収められている)。

「ナルボンヌのジレット」は『デカメロン』で3日目、第9番の物語 (Tale iii, 9) として収められている物語であるが、ウィリアム・ペインターは第38番目の物語として採用して第1巻 (マイルズの版でも第1巻) に収めた。この「ナルボンヌのジレット」を底本としてウィリアム・シェイクスピアは『終わりよければすべてよし』の芝居を書いたとされる。

『悦楽の宮殿』所収のいずれの物語にも段落がない。「ナルボンヌのジレット」もその例外では

ない。しかし、この日本語訳では読者の便を考慮して段落をつけた。又、「ナルボンヌのジレット」は、他の物語同様、「語り」の形を取っている。そのため、語句の繰り返しが多いばかりか、関係詞や句読点の連続で一つの文が非常に長い。原文の味を損なわないよう心がけるとともに、日本語に馴染まない語句の繰り返しや違和感のある長文は避けるように心がけたが、不自然な繰り返しや長文があるかもしれない。原著の「語り」を念頭にお読みいただければ幸いである。

「ナルボンヌのジレット」は近世英語で書かれている。綴り、語義とも現代英語とは異なる。綴りの異同はほぼすべての単語に及ぶため、それをここに記述することは量的に不可能であるが、語義については本稿の後に語義表をつけた。

A Lexical Word List for ‘The Thirty-Eighth Novell’ (‘Giletta of Narbona’)
of William Painter’s *The Palace of Pleasure* with an introduction
by Hamish Miles and illustrations by Douglas Percy Bliss
(The Cresset Press, London, MCMXXIX)

Masami Hatano

page	line(s)	words in text	listings in OED	meaning
138	2	fistula	fistula	Pathol. A long, narrow, suppurating canal of morbid origin in some part of the body; a long, sinuous pipe-like ulcer with a narrow orifice.
	4	despite	despite	Indignation, anger, evil feeling, especially such as arises from offended pride, vexation, or annoyance.
	5	pollicie	policy	A device, expedient, contrivance; a crafty device, stratagem, trick. <i>Obs.</i>
	13	amiable	amiable	(= Fr. <i>aimable</i> , L. <i>amabilem</i> .) Worthy to be loved, lovable, lovely. a. of persons. <i>Obs.</i> (exc. as restricted in 3.) 1604 Shakes. <i>Oth.</i> iii. iv. 59 While she kept it, ‘T would make her Amiable, and subdue my Father. 第2例
	21	diligently kinsfolke Now rare.	diligently kinsfolk	Attentively, carefully, heedfully. <i>Obs.</i> Persons of the same kin; relations by blood; relative
	22	looked unto	look look to	<i>look unto</i> —. <i>arch.</i> = look to, ... To keep watch upon.

page	line(s)	words in text	listings in OED	meaning
	26	privie	privy	Participating in the knowledge of something secret or private; in the secret; privately cognizant or aware; intimately acquainted with or accessory to some secret transaction; = <i>private</i> a. 11 Const. to, †of, or †with cl.
	27	report	report	Rumour, common talk. (Sometimes personified.) Now <i>rare</i> .
	30	griefe	grief	Physical pain or discomfort. <i>Obs.</i>
	31	proved	prove	To make trial of, put to the test; to try the genuineness or qualities of; to try, test. <i>Arch.</i>
	32	griefe	grief	A bodily injury or ailment; a morbid affection of any part of the body; a sore, wound; a blemish of the skin; a disease, sickness. <i>Obs.</i>
139	2	meanes by this meanes	mean	<i>by this or that means</i> (or † <i>mean</i>): by means of this or that; in this or that way, thus.
	3	passee bringe to passee	pass	Phrases. (Now somewhat <i>arch.</i>) (Here <i>to pass</i> is often regarded as infinitive of the vb.; but see quot. 1549 in a, 1542 in b, and cf. prec.) a. <i>to bring to pass</i> (rarely † <i>unto pass</i>): to bring to accomplishment, fulfilment, or realization; to carry out; to accomplish, produce, bring about.
	5	before time	beforetime	In former time, formerly, previously. ¶ Sometimes two words = Time preceding.
		pouder	powder	In medicine, etc.; formerly (usually) a corrosive, stimulant, etc. for external application; ...
	9	vouchsafe	vouchsafe	To show a gracious readiness or willingness, to grant readily, to condescend or deign, to do something: ...
		griefe	grief	The seat of disease; the diseased part; the sore place. <i>Obs.</i>
	10	comlie	comely	<i>absol.</i> or as n. Fair one. (Cf. bright B. 2., clear C. 1., fair, etc.) <i>Obs.</i>
	11	comforte put ... in comforte	comfort	to put <i>in comfort</i> : to encourage, cheer up, console.
	13	whole	whole, <i>Obs.</i>	To become whole; to recover from sickness; to heal, as a wound.
	17	direct	direct	That goes straight to, or bears straight upon, the point, without circumlocution or ambiguity; straightforward.
	19	knowledge	knowledge	Acquaintance with a branch of learning, a language, or the like; theoretical or practical understanding of an art, science, industry, etc.; †skill in or to do something (<i>obs.</i>). (Rarely in plural.)
	20	phisicke	physic	The art or practice of healing; the healing art; the medical profession.
	21	cunninge	cunning	A branch of knowledge or of skilled work; a science or art, a craft. In early times often = occult art, magic. <i>Obs.</i>
	25	space a litle space	space	Denoting time or duration. With <i>a</i> and <i>pl.</i> : A period or interval of time.
		offence	offence	Feeling of being hurt, painful or unpleasant sensation, pain. <i>Obs.</i>
	28	guard	guard	Keeping, guardianship, custody, ward. ... <i>Obs.</i>
	33	worship	worship	man, gentleman, etc., of worship: a person of repute and standing. Now <i>arch.</i> So <i>of good, or great, worship. Obs.</i>

page	line(s)	words in text	listings in OED	meaning
	34	in marriage	marriage	Phr. with preps. <i>in marriage</i> (now <i>arch.</i>): in the matrimonial state, in wedlock. <i>to give, take in</i> († <i>to, †into</i>) <i>marriage</i> : to give, take as husband or wife.
	37 39	incontinently whole	incontinently, <i>arch.</i> whole	Straightway, at once, immediately; = <i>incontinent adv.</i> Of a person or an animal, the body, limbs, skin: Uninjured, unwounded, unhurt; (contextually) recovered from injury or a wound; †(of a wound) healed.
140	3	order	order	To set or keep in order or proper condition; to adjust, dispose, or carry on according to rule; to regulate, direct, conduct, rule, govern, manage; to settle. A body politic, a kingdom or commonwealth; = <u>state</u> . <i>Obs.</i>
	4	estate according to	estate according according to	In a manner agreeing with, consistent with, or answering to; agreeably to.
	8	stocke	stock	A line of descent; the descendants of a common ancestor, a family, kindred.
	8–9	convenable	convenable <i>Obs.</i>	Agreeing with circumstances or requirements; suitable, appropriate, proper, meet, becoming.
	12	faith	faith	Assurance given, formal declaration, pledge, promise. ... <i>Obs.</i>
	14	person my person	person	The actual self or being of a man or woman; individual personality. With of or possessive: <i>his (own) person</i> = himself; <i>your person</i> = yourself, you personally. †Formerly often used by way of respect: e.g. <i>the king's person</i> for 'the king'.
	17	intirely verely	entirely verily, Now <i>arch. or rhet.</i>	Heartily, sincerely. In truth or verity; as a matter of truth or fact; in deed, fact, or reality; really, truly. Freq., latterly almost entirely, used as an emphatic affirmation of the truth of a statement, esp. with verbs of believing, thinking, etc. In ME. and older Sc. poetry often used as a mere rime-tag.
	18–19	therewithal	therewithal, <i>arch.</i> therewith	That being said or done; = <u>therewith</u> 2 c. With that (word, act, or occurrence); that being said or done; thereat, thereupon, forthwith.
	23	praied	pray	To ask earnestly, humbly, or supplicatingly, to beseech; to make devout petition to; to ask (a person) for something as a favour or act of grace; ... <i>arch.</i>
		licence	licence	Liberty (to do something), leave, permission. Now somewhat <i>rare</i> .
		consummat	consummate	To complete <i>marriage</i> by sexual intercourse.
	25	Senois		Siena, Tuscany
	29	unkindness	unkindness	Unnatural conduct; absence of natural affection or consideration for others. <i>Obs.</i>
	33	sage	sage	<i>adj.</i> Now only <i>literary</i> .
		disposed	dispose	1. Of a person: Wise, discreet, judicious. To regulate or govern in an orderly way; to order, control, direct, manage, command. <i>Obs.</i>
	37	liberties	liberty	A privilege or exceptional right granted to a subject by the sovereign power; = <u>franchise</u> n.

page	line(s)	words in text	listings in OED	meaning
	38	signifie signifie unto	signify	To make known, intimate, announce, declare. b. Const. <i>to</i> (<i>funto</i>).
	40	chorlishly	churlishly	In a churlish manner; rudely, coarsely, harshly, roughly; with niggardliness.
141	5	bethoughte bethoughte her	bethink	<i>refl.</i> ... To collect one's thoughts; to take thought; to recollect oneself, return to oneself. <i>Obs.</i>
	8	lamentable	lamentable	Of persons, their appearance, actions, voice, song, etc.: Full of or expressing sorrow or grief; mournful, doleful. Now <i>rare</i> or <i>arch.</i>
		wyse <i>Obs.: obs. f. wise</i>	wise, <i>arch.</i>	Manner, mode, fashion, style; spec. habitual manner of action, habit, custom (cf. <i>way</i> n. 22). <i>Obs.</i>
	10	lothe	loath, loth	Repulsive, unpleasant, hateful, loathsome.
	18	Wherefore	wherefore	On account of or because of which; in consequence or as a result of which. Chiefly with n. (esp. reason or cause) as antecedent. <i>arch.</i>
	19	kinsemen	kinsman	A man of one's own kin; a relative by blood (or, loosely, by marriage). (Now chiefly <i>literary.</i>)
		habite furnished	habit furnished	Bodily apparel or attire; clothing, raiment, dress. <i>arch.</i> Equipped; formerly in material sense, †Accoutred, dressed, provided with necessaries; now only in immaterial sense, Informed, instructed, prepared. 1566 Painter <i>Pal. Pleas.</i> (1569) 150 b, The sight of his sonne richly furnished ... did more astonne him. (第2例) phr. <i>by fortune</i> : by chance, ... <i>Obs.</i>
	21	fortune by fortune	fortune by fortune	
	24	lay	lie	To dwell or sojourn; esp. to sleep or pass the night (in a place), to lodge temporarily. Now <i>rare</i> or <i>arch.</i>
	26	straunge	strange	Belonging to some other place or neighbourhood; unknown to the particular locality specified or implied. Of a place or locality: Other than one's own.
	29	substance	substance	Possessions, goods, estate; means, wealth. <i>arch.</i>
	30	report good report	report	Repute, fame, reputation. Now only with <i>good</i> , etc., as an echo of Biblical passages.
	32	litle by litle and litle	little	Phrases, chiefly formed with prepositions. 7. Forming expressions, chiefly with repetition of <i>little</i> , having the sense: <i>By small degrees</i> ; a little at a time; gradually. a. <i>by little and little</i> ; also † <i>by little and by little</i> , † <i>by a little and (a) little</i> .
	33	effecte	effect	Practical reality, fact, as opposed to name or appearance: <i>Obs.</i>
	37	estate	estate	Outward display of one's condition; grandeur, pomp, <u>state</u> . <i>Obs. exc. arch. (poet.)</i>
	39	intertayned	entertain	To treat in a (specified) manner. <i>Obs.</i>
142	2	fidelitie	fidelity	Strict conformity to truth or fact. † a. Of persons: Honesty, truthfulness, trustworthiness, veracity (<i>obs.</i>).
	4	hardlie	hardly	Boldly, daringly, hardily. <i>Obs.</i>

page	line(s)	words in text	listings in OED	meaning
	8	compassion	compassion	Suffering together with another, participation in suffering; fellow-feeling, sympathy. <i>Obs.</i>
		to have compassion		<i>to have compassion</i> : to have pity, take pity.
	11	behoveth	behave, behoove	<i>quasi-impers.</i> (the subject being a clause). In early ME. without <i>it</i> , which is now ordinarily used. a. with the thing incumbent expressed by an infinitive, and with personal object: It is incumbent upon or necessary for (a person) <i>to do</i> (something).
	15	albeit	albeit	That omitted: Even though it be that; even though, although, though.
	15	likelyhoode	likelihood	The quality or fact of being likely or probable; probability; an instance of this.
	17	declare	declare	To manifest, show forth, make known; to unfold, set forth (facts, circumstances, etc.); to describe, state in detail; to recount, relate. <i>Obs.</i>
	18	effecte be brought to effecte	effect	Accomplishment, fulfilment. Now only in phrases, <i>to bring to effect</i> , <i>carry into effect</i> : to accomplish, bring to a successful issue; <i>to put into effect</i> : to accomplish, to realize.
	20	bestowe purpose	bestow purpose	<i>sp.</i> To apply money to a particular purpose; to lay out, expend, spend. <i>Obs.</i> To put forward for acceptance; to offer, proffer, present; = <u>propose</u> v. 3 a, c., <i>Obs. rare.</i>
	21	readie money	ready money	Coined money, cash, as being immediately available for use; also, immediate payment in coin for anything bought. (In common use from 15th c.)
	25	honest	honest	Of things, conditions, actions, etc. <i>Obs.</i> a. Worthy of honour, honourable, commendable; bringing honour, creditable.
	27	knowledge	knowledge	Information; intelligence; notice, intimation. <i>Obs.</i>
	28	commaundement	commandment	The action or fact of commanding; bidding, command. <i>Obs.</i>
	29	intent to the intent	intent	In phrases, as <i>to what intent</i> , <i>to that intent</i> , <i>for this intent</i> , etc. Esp. in the conjunctive phrase <i>to (tfor) the intent (that)</i> : to the end (that), in order (that). <i>Obs.</i>
	35	peradventure	peradventure	In a hypothetical or contingent statement; and, hence, making a statement contingent: Perchance, haply; maybe, perhaps; not improbably, belike. with child: ...
	36	child with child	child	<i>lit.</i> Pregnant.
	37	begotten	beget get	= <u>get</u> (with child). <i>Obs.</i> <i>to get with child</i> : to make pregnant.
	41	meane	mean	One who acts as mediator, 'go-between', or ambassador between others; one who intercedes for a person or uses influence on behalf of an object. <i>to be good mean</i> , to act as intercessor. <i>Obs.</i>
	42	affiaunce	affiance	The action of confiding, or fact of having faith, in a person, quality, etc.; faith, trust. Const. <i>in</i> , rarely <i>on</i> (<i>subord. clause, upon, to, unto</i> , <i>obs.</i>)
143	1	subtiltie	subtilty subtlety	Skill, cleverness, dexterity; = <u>subtlety</u> 2. †2. Skill, cleverness, dexterity. <i>Obs.</i>

page	line(s)	words in text	listings in OED	meaning
	2	ill will	ill will	Evil or hostile feeling or intention towards another; malevolence, malice, enmity, dislike.
		order	order	Disposition of measures for the accomplishment of a purpose; suitable action in view of some particular end; <i>to take order</i> , to take measures or steps, to make arrangements. <i>Obs.</i> or <i>arch.</i>
		took order		1557 Order of the Hospittalls (初例) ... 1603 Shakes. <i>Meas. for M.</i> ii. ii. 25 Let her haue needfull, but not lauish meanes, There shall be order for:t. (第4例)
	4	effectuously	effectuously, <i>Obs.</i>	Urgently, earnestly: cf. <i>affectuously</i> . 16世紀の例, 2例のみ。
	10	amiable	amiable	Of words, conduct, etc.: Friendly, kindly.
	21	constrained	constrain	To compel or enforce (an action, etc.); to bring about by compulsion or of necessity.
	23	shamefastenesse	shamefasteness	Modesty, sobriety of behaviour, decency, propriety; bashfulness, shyness. Also, †a feeling of shame, ashamedness.
	25	valour	valour	The amount (in money, etc.) or sum that a thing is worth; = <i>value</i> n. 2. <i>Obs.</i>
	28	occasion	occasion	A pretext; an excuse. <i>Obs.</i>
	30	revoked	revoke	To recall; to call or summon back: a. a person, <i>esp.</i> from exile or from some office abroad. Now <i>rare</i> . (Common c 1540–1640.)
	34	childbedde bedde	childbed bed	The bed in which a child is born. 2. <i>transf.</i> b. As the place of procreation and child-birth; hence parental union, parentage; also birth, progeny.
144	9	astoned	astoned, astunned, <i>Obs.</i>	Stricken with consternation or amazement, so as to lose presence of mind; amazed, overwhelmed, confounded; astonished.
	12	rehersted	rehearse	To give an account of; to relate, narrate, recount, describe at length. Now <i>rare</i> .
	13	discourse	discourse	Onward course; process or succession of time, events, actions, etc.; = <i>course</i> . <i>Obs.</i>
	15	witte	wit	Wisdom, good judgement, discretion, prudence: = <i>sense</i> n. 11. <i>Obs.</i>
	18	abjected	abject, <i>Obs.</i>	To cast off, throw off or away, cast out, exclude, reject, <i>lit.</i> and <i>fig.</i> ; generally, though not always, as inferior, unworthy, or vile, and hence passing into the idea of casting down, degrading.
	21	contentation	contentation	The resulting fact of being satisfied; satisfaction. <i>Obs.</i>